

【エリアの特性】

＜自然＞

寝屋川の流の中で田園風景に親しめるまち

市内を流れる寝屋川は、このエリアで清滝川と江蟬川が合流し、この後は市域を離れ、天満橋付近で旧淀川の流れとなります。

寝屋川第十二水路が堀溝の集落内の水田をうるおし、また、河北第二水路が流れる河北の用水路の周辺では、緑豊かな田園風景の広がりが見られます。また、このエリアには、深北緑地などの良好な自然の空間もあります。

＜歴史・文化＞

昔の大坂と大和の往来を忍ぶ旧街道のまちなみが残るまち

南部に位置する堀溝は、奈良朝時代の行基がつくったと言われる旧行基みちがあり、かつての大和地方と大坂の往来や江戸時代から明治にかけて水運路であった寝屋川の物資の集散地として栄えた猪鼻橋付近は、昔のまちなみの面影も残されています。

河北は、もとの深野池（ふこの）の池床であり、宝永年間（1710年頃）に開墾され、明治2年開墾者の屋号（河内屋源七の北新田）を略して河北と呼ぶようになったと言われ、昔の大坂と大和の往来を忍ぶ旧街道のまちなみや新田開墾により開けた田園風景が残るまちです。

＜人工・都市＞

高層住宅や新しい住宅が立地する市の南の玄関口のまち

堀溝付近は、旧家と戸建住宅が混在していますが、まちなみの緑がその調和を保ち、河北中町には、中規模の戸建住宅が開発されており、生け垣の緑が映えるまちです。寝屋川河北住宅が田園の中に建設され、高層住宅からは生駒山系が眺望できます。また、国道163号や国道170号は、隣接市からの玄関であり、道路沿いには、工業・流通施設などが立地しています。

景観整備の方向

旧街道の面影を伝える歴史と水際のまち

景観形成の基本目標

景観形成に向けた誘導基本方針

＜自然＞

- 寝屋川や讃良川、江蟬川などの水際景観を活かすまち

- 河川沿いの修景や緑化を図り、水と緑の自然空間を育む。
- ・河川護岸の修景や川沿いの道の演出
- ・水辺をつなぎ、水と公園の緑に親しめる環境や河川・水路の合流点における演出

＜歴史・文化＞

- かつての大坂と奈良を繋ぐ奈良街道沿いの旧集落のまちなみと鶯の関の史跡を活かした歴史的景観に親しむまち

- 鶯関神社や旧街道沿いの旧集落地のまちなみを大切にす。
- ・旧行基みちや鶯関神社などの歴史的資源の活用
- ・旧集落地の風景の活用と演出

＜人工・都市＞

- 深北緑地の広い緑の空間などを活かし、市の南の玄関口としてうるおいのあるまち

- 寝屋川の遊水地である深北緑地や周囲の田園風景を大切にす。
- ・周辺と一体となった深北緑地の緑の活用
- ・護岸の修景による活用
- ・視点場として、橋上の小広場などを活用

景観資源と特性図

(凡例)

- 旧街道
- PPPP 商業施設・商店街
- * ため池
- 河川・水路
- ▨ 農地・斜面緑地
- ★ 社寺・鎮守の森
- 公園・広場
- 学校教育施設
- ▲ その他公共的施設
- ▨ 低層戸建住宅地
- ▨ 中高層住宅団地
- ▨ 旧集落地
- ⬢ 景観単位及びその周辺の整備目標
- 文化と歴史のネットワークルート
- 自歩道(既存)
- - 自歩道(計画)
- *** 緑道(既存)
- 緑道(計画)
- 北河内広域自転車道

◎ 堀溝一丁目には、旧街道の
行基みち、鸛関神社などがある



堀溝のまちなみ



① 多くの水路、
河川が寝屋川
に合流してい
る地域

◎ 河北西町付近一帯には
生産緑地として市街化
調整区域が広がっている



河北のまちなみ



■景観基本単位

名称	<旧集落地>堀 溝	<旧集落地>河北中町・西町
景観整備 の目標	○失われつつある旧街道（旧行基みち）の面影を大切に する。	○旧集落の緑や水際を活かしたまちなみを大切に する。
活用する 景観資源	○旧街道の歴史的散策路としての演出と活用 ○旧集落や社寺の緑など、緑が豊かなたまたまの活用	○河川沿いの修景や緑化の推進による活用 ○田園地帯の風景や見晴らしのよいまちなみを活用